

2026.3.21

厚生労働省

令和7年度依存症民間団体支援事業

依存症回復支援施設

交流集会

参加無料

2026.3.21(土)

午後12時より(午前11時30分より受付)

エル大阪(大阪府立労働センター)

大阪メトロおよび京阪電車の天満橋駅から徒歩約5分

11時半 受付

12時 全体集会

14時半 分科会

全体集会 12:00~14:15

「当事者とともに歩む」支援のかたち —回復施設の歴史とこれから—

回復施設の始まりはいつ頃で、どのような状況から生み出されていったのでしょうか。障害者自身による運動はまた、どのような背景の中から始まり、今はどのような方向に向かっているのでしょうか。

「回復施設の始まり」「障害者運動の始まり」から今日に至る歴史経緯について学び、現状、そして、これからを展望していきたいと考えます。

■講師

田島巳喜雄 大阪マック 大阪マック設立者、カウンセラー

倉田めば 大阪ダルク 大阪ダルク設立者、Freedom代表

細井清和 障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議 事務局長

■コーディネーター

高橋郁夫 釜ヶ崎ストロームの家

佐古恵利子 リカバリハウスいちご

主催：特定非営利活動法人大阪ダルクアソシエーション

共催：いちごの会・大阪マック・釜ヶ崎ストロームの家

分科会1

ギャンブル地獄からどう抜け出すか ～ギャンブル依存症の理解と対応

アディクションの起源は私たちが今使っている脳の基本構造ができたときで、さまざまな行為にハマるのが私たちという生き物です。「賭け」にハマることも文明が生まれた時期からある、人間特有の行動のひとつで、現代的な形態がギャンブルです。この行動を理解することで、どう対応すればいいのかを導き出していければと考えています。

講師

吉田精次(精神科医)
藍里病院副院長、藍里病院依存症研究所所長

分科会2

依存症支援とソーシャルワーク ～回復を支える理論と実践の接続

本分科会では、依存症支援においてソーシャルワークが果たす役割とその重要性を中心に取り上げる。依存症からの回復は、個人の内面のみで完結するものではなく、家族関係、制度、地域社会、文化的規範など多層的な環境との相互作用の中で進んでいく。講義では、回復を支える理論モデルを整理し、支援実践を構造的に捉える視点を提示する。後半の演習では、各現場で実行可能なアクションプランを作成し、理論と実践の接続を図る。

講師

岡田 まり
立命館大学 産業社会学部 教授

分科会3

リカバリー志向での 大麻の行方を模索したい

2023年、大麻の検挙者数が、覚せい剤を上回った。しかし、大麻の本質的な問題は明らかでなく、リカバリープログラムは確立していない。そこで、大麻使用経験者同士で大麻に関する「当事者研究」(野菜クラブ)の研究を行った。大麻使用者のあるがままの姿をあぶり出し、大麻についての今日的課題を多様な角度から探求したい。

報告: 寶田 穂

(武庫川女子大学・精神看護学教授)

倉田めば

(Freedom代表、野菜クラブコーディネーター)

分科会4

生き方はいろいろ ～アディクションとともに生きる人たちの多様性

「生き方はいろいろ」をテーマに、アディクションとともに生きる人たちの今の姿を共有します。後半は少人数のグループに分かれ、感じたことや思いを語り合う時間を設けます。異なる地域、異なる施設の人たちとの出会いを通じて、アディクションと共に生きる私たちの多様性と可能性を確かめあいましょう。

コーディネーター

寺井修也
大阪ダルク代表

申し込み・お問い合わせ 先着順で受付します。定員を超えたときは、お断りすることがあります。

・申し込み専用フォームから

<https://forms.gle/Nd1SCzPaQWxkKbPG6>

スマホから申込み



・ファクスから 下の欄に記入し、この面を送信してください。 ファクス 06-4980-8040

・お問合せ リカバリハウスいちごいちえ 06-7503-8087

※分科会は先着順です。定員を超えた場合は、第二希望分科会に参加していただきます。

お名前	所属	職種など	分科会第一希望	分科会第二希望
		☐ 施設スタッフ	☐ 分科会①	☐ 分科会①
		☐ 利用者	☐ 分科会②	☐ 分科会②
		☐ その他	☐ 分科会③	☐ 分科会③
		()	☐ 分科会④	☐ 分科会④